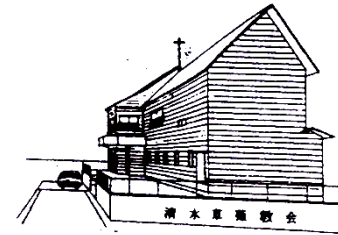


週報

2008年 1月 27日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。

使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステルのお会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸

- ★ 21日、日立大久保教会を会場に東部教区会が行われました。今年度の交換講壇では、小島牧師に声をかけ、お願いすることになりました。村上牧師は平教会に向かいます。
- ★ また次回の教区会は、草薙教会になります(5月19日)。教区のためにもお祈りください。

《今朝の聖書から》

今朝は、イエス様の癒しの業について学びましょう。イエス様は今も昔も、多くの人たち、求める人々すべてに多くの癒しをもたらしてくださいます。ここに癒しの神様の恵みである特徴があります。“求める人すべて、例外なく全ての人”にもたらしてくださるのです。先週は、最大の罪は“世を去るまで聖霊による罪の赦しを拒否し続けること”であることを学びました。さらに進んで学びましょう。ここには、癒されることを求めている多くの人たちが描かれています。盲人、病人、足なえ、やせ衰えている人々がそうです(5:3)。中でも中心に記録されている人は、5節に描かれている“三十八年の間、病気に悩んでいる人”です。イエス様はこの人に当たり前の質問“治りたいのか?(6節)”と声をかけられています。あまりにも当たり前で、いまさら問うことのように思えないことです。私達も困難に会った時、回復を期待します。そのために努力もします。しかし、あまりにも長くなると、努力する力もなくなってしまふことがあります。しかし、困難は困難として残ります。その時に残る思いは、あきらめとも、不平ともつかない、コンプレックス(劣等感)だけです。イエス様は、この病人が最初に、当たり前のことのように思っていたことを指摘されたのみだったのです。このことに“治りたいのです”とは答えていません(7節)。さまざまな理由で自分がいやされない理由を述べているのです。このような生き方も“罪の生き方”と言えるのです。いくら理由をはっきりと述べても、癒されることには結び付きません。思い出しましょう。水の面が動くのに気づいたとき、最初に水面まで駆けて行けるのは、病気の軽い、足の丈夫な人に決まっています。“私を池の中に入れてくれる人がいないのです”と、全く正当な理由を考え付いていたのです。これが罪であることが11節で明らかにされています。癒された人によってです。“私に病の床を取り上げよと言ってくださった人がいる”と私達もイエス様に、お答えしたいものです。悩みがもっと大きくなるといけないので私達も、御霊を裏切る前に、癒し主に会えたことに感謝しましょう。